２０１９年度　文 学 講 演 会

主催：公益社団法人 上伊那教育会

１　日　　時　　１０月１９日（土）　１４：００～１６：００
２　講　　師　　堀井　正子　先生　　（近代文学研究家）
３　演　　題　　宮澤賢治「銀河鉄道の夜」への旅

『　堀井正子 先生　プロフィール　』

千葉県生まれ 東京教育大学文学部卒業
高校教員。短大、長野高専、信州大学、中国の武漢大学等で講師を務める。
現在、県カルチャーセンター、八十二文化財団教養講座の講師、信越放送ラジオ「武田徹のつれづれ散歩道」にレギュラー出演中。信濃毎日新聞「クレソン」の「ことばのしおり」の執筆等を担当。

主な著書に「ふるさとはありがたきかな――女優松井須磨子」「戸隠の絵本」「源氏物語 おんなたちの世界」「ことばのしおり」「ことばのしおり 其の弐」「出会いの寺 善光寺」などがある。

現在 長野市在住

【教育会長挨拶】　林　　武司　上伊那教育会長

皆さん、こんにちは。
　県下にも甚大な被害をもたらした台風19号の通過から一週間が過ぎました。まだまだ多くの方々が大変な生活を送っておられます。被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げるとともに、１日も早い回復を祈るばかりです。
　本日は、公益社団法人上伊那教育会主催の「文学講演会」に、会員の皆さんをはじめ地域の皆様にも多数お集まりいただき、ありがとうございます。
　この「文学講演会」は、「哲学研修」「授業研修」と並び、上伊那教育会の三大研修とよばれている事業です。価値ある文学作品の読み合わせを通して、自らを見つめ直す良い機会となっております。また、公益事業としても大変重要な研修として位置づけ、毎年継続しております。
　その作品の書かれた時代背景や作者の生き様などを手繰りながら読み深めることで、自分の振り返りをする研修。それは、文学の登場人物や作者の生き様を通して「他者と出会う」ための本当に貴重な時間となっていると思います。

さて、文学読み合わせの講師に、東春近公民館館長、元高遠中学校校長、野溝和人先生をお願いし、ご指導をしていただいています。先生は、会員の思いを大切にされ、より親しみやすく、興味をもって学べるようにと、新しい文学研修の形を作っていただきました。「芥川賞と現代作家たち（その４）　ぶらり芥川賞作品読み歩き」と題して、身近で魅力的な、芥川賞を受賞した作品を取り上げられ、合計５回の読みあわせで、毎回懇切丁寧に、また的確なご指導をいただいております。心より感謝申し上げます。

そして、本日は、近代文学研究家、堀井正子先生に、「宮澤賢治『銀河鉄道の夜』への旅」と題してご講演を賜ります。よろしくお願いいたします。先生のご紹介につきましては、この後、原研修部長がさせていただきますが、ご存知のように、信越放送の「武田　徹のつれづれ散歩道　近代青春グラフティー」のレギュラーパーソナリティとして出演されています。武田徹さんとの絶妙な掛け合いのなかで、先生の上品でステキな語りと、優しい笑い声に、思わず聞きほれてしまいます。今日も長野でラジオ番組を出演されてからこの会場にお越しいただきました。本日はよろしくお願いします。

それでは、参会者の皆様、ご静聴のほどよろしくお願いいたします。

講演内容の概要

１９２２年、（大正11年）11月２７日、宮澤賢治の妹トシは２４歳で死去した。

浄土系の家系でありながら、異教の法華経の信仰へ入りこんだ賢治は、父親には相手にされなかった。兄を尊敬する妹トシは賢治の薦めるままに入信する。同じ法華経をトシは選んでくれた。その最愛の妹を肺結核で失った賢治が「妹といっしょにいってやれなかった」という悲痛な思いを抱えて、生きる中から生まれたのが童話「銀河鉄道の夜」である。

また、「永訣の朝」の詩は「無声慟哭」の中の巻頭の一篇である。

トシの言葉から始まる「あめゆじゅとてちてけんじゃ」（雨雪取って来て呉【け】んじゃ）　の言葉は、死にゆく日、最愛の兄に雪をたのんだ妹の声である。その思いをよんだ<永訣の朝>詩歌の冒頭一節がこれである。

賢治の童話「ひかりの素足」はちょうど「銀河鉄道」を書いている時期に書かれた一篇で、一郎が助かり、弟の楢夫（ならお）が亡くなっていく話だ。一郎と楢夫の兄弟が炭焼きをしている父のもとへ土曜日に行き、日曜日に帰ってくる。昼過ぎ父と別れ、馬をつれて炭俵を運びに来た人の後について、家路に向かう。馬方の人がすれちがう人と長話をしているので、退屈した二人は歩き出す。そのうちに雪が降り始め、二人は雪に埋もれてしまう。

弟は死の世界へ。兄はこちらの世界へ戻る。弟は兄の方に手をさしのべながら、最期にニーッと笑った。ふっと気づくと、兄は雪をほり起こされ、目覚めていく途中だった。兄が夢の中で見たあの笑顔と同じ笑顔を浮かべていた弟は、死の世界からよみがえらなかった。

賢治は花巻農学校で３年間教師を務めた。肋膜炎で決して丈夫ではなかったが、農民の苦労に思いを寄せ、「教師をしていていいのだろうか」と自責の念にかられた。結局、農民のために尽くす決意をした賢治は、辞職した。凶作には自分なりに悩み、農民として自炊生活をしながら、農家の青年たちに農業科学や芸術を教えた。「下ノ畑ニ居リマス　賢治」の家の入り口黒板に書かれた文字はそれをよく表している。「雨ニモ負ケズ…」はそうならなかった自分の理想の言葉である。

「ひかりの素足」は、賢治が妹トシに「一緒についていってやれなかった」思いが暗喩されている。同様に「銀河鉄道の夜」におけるジョバンニとカムパネルラにも「この世からあの世」へ銀河鉄道がガタゴト、ガタゴト進む幻想の象徴として描かれている。カムパネルラは既に死んでいる。「銀河鉄道の夜」は第４次稿だが、最終稿かというとそうではなく、未完成稿である。何度も何度も書き直している。人をどうやっておくっていくか。第一次稿があり、第二次稿があり、第三次稿があり…賢治の苦悩がここに表れているのだ。タイタニック号沈没の話が自己犠牲の一つとしてここで描かれているのも無縁ではない。賢治はトシをおくってやれなかった兄だが、「銀河鉄道の夜」は、ジョバンニが親友カムパネルラを「最後まで見おくっていけた」物語である。

「銀河鉄道」には選ばれたものだけが切符を持てる。しかし、ジョバンニはなぜ切符が持てたのだろうか。ジョバンニは既に現実世界で切符を得て、死の世界から戻れる切符を得ていたのである。

参加者の感想

- 昨年度からの続きで話を聞かせていただくことで「無声慟哭」、「銀河鉄道の夜」、「ひかりの素足」等の作品のつながりがわかり、大変勉強になりました。講話の内容も感動的でとても聞き応えのあるものでした。賢治の作品を読みたくなりました。
- 恥ずかしいことですが、「銀河鉄道の夜」は読んだことがありませんでしたが、今日堀井先生のお話をお聞きし、単なる物語ではなく宮澤賢治自身の身の上から生まれたものだということを知り、一度本を開いてみたいと思いました。また、宮澤賢治は国語の教科書にも出てくるので、是非今日お聞きしたことを子どもたちにも話したいと思いました。
- 「銀河鉄道の夜」は学生の時に読んで、描写がきれいだと感じました。賢治作品は難しい表現や言い回しが多いのですが、それを丁寧に読んでいくと作者のメッセージが浮かび上がってくると思いました。星祭りがクリスマスとお盆を融合させたものというのもロマンチックな舞台設定だと感じました。賢治がトシのために書いたこの作品をもう一度読み直したいです。わかりやすい講演をありがとうございました。
- 初めて参加した文学講演会でしたが、堀井先生の優しい語りの中で宮澤賢治の世界を改めて見直すことができました。妹トシの死と「銀河鉄道の夜」「ひかりの素足」に出てくる死、死んだ人がどこに行くのか、それを見届けたい、送りたいという賢治の悲しみ、優しさが根底にあるお話なんだと感じました。改めてこのお話を読み直してみたいと思いました。
- 「銀河鉄道の夜」の中に妹さんを送ることができなかった宮澤賢治の思いが入っていることなど、とても興味深く堀井先生のお話に引き込まれて聞いていました。今まで「誰かのために命をなくした人がどこからでも乗れる銀河鉄道」ということは、思って読んでいなかったので、「ジョバンニの友といつまでもいたい」という思いとともにもう一度しっかり読みたいと思いました。ありがとうございました。
- 堀井先生からは、宮澤賢治の生い立ちや生涯が作品に影響していること、銀河鉄道という美しい表現がされていること、人のために自分の命を捨てた人が乗ることができるのが銀河鉄道であること等々様々なことを知りました。ありがとうございました。
- 作品中の言葉や表現を丁寧にひもといていただきました。賢治の生涯や考え方や伝えたかった思いをとてもわかりやすく心地よくお話いただき、自分で読んでいたときよりも納得できたり、心に響くものがありました。堀井先生の人となりも相まってすてきな時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

【お礼の言葉】小澤徳夫　上伊那教育会副会長

堀井先生、本日はご講演ありがとうございました。

昨年は若竹千佐子さんの『おらおらでひとりいぐも』と賢治の『永訣の朝』の一節「Ora Ora de shitorii-egumo」の関連性、そこから湧き出る賢治の妹トシへの思い、そしてそれが「銀河鉄道の夜」に繋がっているというお話をお聞きしました。今年は引き続きのお話ということで、とても興味深くお話をお聞きすることができました。

トシの死を一つの契機として、賢治が常に生と死を見つめていたということがわかりました。特に『青森挽歌』、『噴火湾』は、妹トシを送れなかった兄の苦悩であったということ、そして『光の素足』から『銀河鉄道の夜』に繋がり、『銀河鉄道の夜』については、亡くなった人を送れた物語であるということをお聞きすることができました。

特に『銀河鉄道の夜』については、細かな解説を頂き、私が気付かなかった伏線があるんだということ、そして人のために命を捨てた人が乗れるのが、銀河鉄道であったということを初めてお聞きすることができました。本当に参考になるお話でした。

『銀河鉄道の夜』は、私は夢の世界の話かなと思っていたのですが、堀井先生は近代文学研究者ということで、研究の結果一緒に旅をした現実であるということでした。もう一回そんなことも考えながら『銀河鉄道の夜』を読み進めてみたいなと思いました。

私たちは教師でありますので、賢治の生き方について触れたお話にも感銘を受けました。4年間の教師生活の中で、農業に自分が関わらずに教師をやっていること、それが許せない、そんな賢治であったということ。それから死の直前まで相談に応じていたというお話がありました。私たちはそこまで真剣に子供と向き合えているのかなと振り返らされる一場面でありました。

明日から子どもとどうかかわっていけばいいのか、賢治の生き方に触れながら考えていきたいと思いました。

堀井先生、本日は本当にありがとうございました。